

平成28年度市民参加条例職員研修実施報告

平成28年度 市民参加条例職員研修



平成28年11月7日(月)・8日(火) 午後2時～午後4時30分
保健福祉センター2階研修室2

本日の研修内容

1. 市民参加とは
2. 市民参加の必要性
3. 市民参加の問題点
4. 市民参加の段階・形態
5. 市の市民参加の総合的評価
6. 市民参加を進めるために
～私たちが意識・行動すべきこと～
7. これからの市民参加のまちづくり

未来志向

主体的な参加

横断的交流

参加者数 計 25 名

<参加者内訳>

秘書広報課 1 名、企画政策課 1 名、行政経営改革課 1 名、市民安全課 2 名、農政課 1 名、商工振興課 1 名、社会福祉課 2 名、子育て支援課 1 名、保育課 1 名、保健福祉相談室 1 名、健康課 2 名、高齢者福祉課 1 名、地域包括支援センター1 名、都市計画課 1 名、環境課 1 名、建築宅地課 1 名、教育総務課 1 名、学校教育課 1 名、市民活動支援課 4 名

研修目的：市民参加条例に基づき市民参加について理解を深める。

研修の特徴：参加型研修により職員が主体的に参加するミニワークを取り入れて実施

ミニワークのテーマ：

市民参加の必要性、市民参加の問題点、市民参加を進めるために～私たちが意識・行動すべきこと～

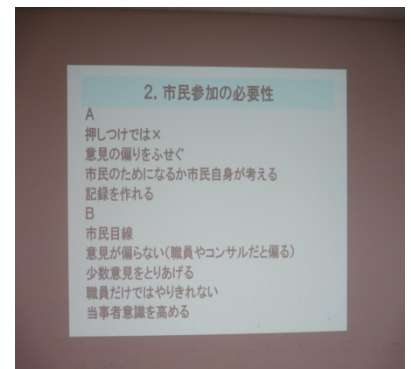
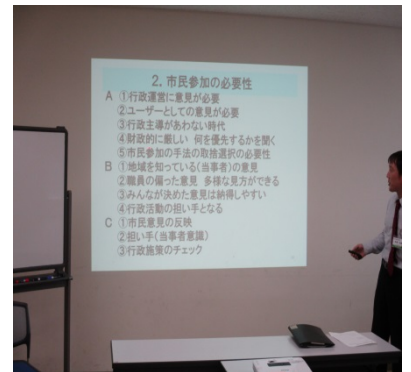




ミニワークのグループ発表の概要

ミニワーク: 市民参加の必要性

- ・ 行政の運営に意見が必要なため。
- ・ ユーザーとしての意見が必要なため。
- ・ 行政の主導が合わない時代となってくるため。
- ・ 財政的に厳しいことから何を優先するか聞くため。
- ・ 市民参加の手法の取捨選択が必要なため。
- ・ 地域を知っている当事者としての意見を聞く必要があるため。
- ・ 職員の偏った意見を多様な見方に変えることが出来るため。
- ・ みんなが決めた施策は納得しやすいため。
- ・ 行政の施策をチェックするため。
- ・ 市民のためになるか市民自身が考えるようにするため。
- ・ 市民目線の施策を行えるようにするため。
- ・ 市民の中にある少数意見を取り入れるようにするため。
- ・ 当事者意識を高めてもらうため。



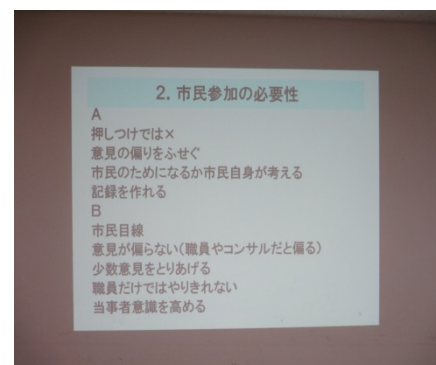
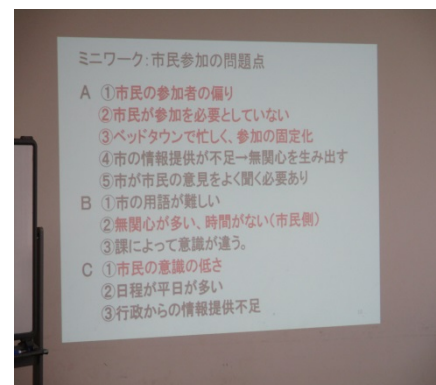
ミニワーク:市民参加の問題点～進まない理由、難しい点、うまくいかない訳～

<職員に関する問題点>

- ・市の情報提供が不足している。
- ・市が市民の意見をよく聞く必要がある。
- ・市が使う用語が難しい。
- ・課によって市民参加に対する意識が違う。
- ・日程に平日が多く、市民が参加しづらい。
- ・参加のハードルが高く、難しそうである。
- ・パブコメなどの他の市民参加の業務で手いっぱいである。
- ・市が市民参加に手を出しすぎている。
- ・市民参加のお知らせ分が杓子定期的で、堅いイメージを作っている。

<市民に関する問題点>

- ・関心や意識が低い、興味がない、理解が不足している。
- ・市民の参加者が偏っている、ベッドタウンで忙しく参加の固定化を招いている。
- ・仕事や子育てで多忙で若い人たちが参加できない。
- ・高齢者の意見が多く、また行政批判が主な意見となっている。
- ・主張が強い意見が有力となってしまう。
- ・市民参加の先導役となる住民リーダーが不在である。またいたとしても高齢者であることが多い。



ミニワーク:市民参加を進めるために～私たちが意識・行動すべきこと～

必要と思われる意識・行動・スキル

- ・市民参加に必要な情報共有をしっかりと行い、説明を尽くす。
- ・市民から出た意見に対し、耳をしっかりと傾ける。
- ・自分から地域に出向き、どのような行政活動が望まれているか情報収集する行動を起こす。
- ・市民や社会のニーズや着眼力を感知する能力を養う。
- ・市民等を含めた対人関係力を個人ではなく組織で向上させるように取り組む。

必要と思われる制度・仕組み・予算・もの・人

- ・市民参加に関する勉強会の機会を設ける。
- ・市内のグループに市民参加に関する専門家を配置する。
- ・地域の意見を引き出すリーダー役を養成する。
- ・職員のコーディネーター力を養成する。
- ・個人ではなく団体に市民から意見を聞き、年代に合わせた職員が幅広く対応する。
- ・既存団体の連携の仕組みを市がリードして作る。
- ・職員のスキルアップを図り、業務の専門性の向上につなげ、市民からの要望等に対し誰でも対応できるようにする。
- ・飲み会のような雰囲気を作るなど、市民特に若い人たちが溶け込めるような意見交換会の場を設定する。

